

# 学習の見通しを持たせる板書とノート指導の工夫

【久喜市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 中学校、全学年、数学科
- 2 ねらい 板書を工夫し、ノートを分かりやすく整理することで、授業中の理解を深め、復習や課題解決をスムーズに行える力の育成ができる。

## 3 取組内容

生徒アンケートによる結果においても一番伸び悩む教科や苦手とする教科が数学である。その理由として、覚えたことを答えるのではなく、理論的に考え、発展させて使いこなす、解く過程でミスなく最後までたどり着くことが困難であるからと声をそろえていう。中でもノートをとることに集中するあまり、解説を聞きそびれ、うまくノート整理ができなくて、あとでノートを見ても理解できないという生徒が多い。

そこで、数学科では①授業内容の板書の仕方②ノートの基本的な使い方の指導③ノートの活用指導を学力の向上に効果的な手立てとして取り組んだ。

- ① 解説しながら板書すると、生徒はどうしても板書を書き写すことに集中してしまうので、下の例1のように板書の内容の柱をはじめに全部書き、生徒がそれをノートに写し終わったところで、解説と重要事項を確認しながら書き加えていく。これにより、解説を聞くこととノートをとることを分けて行え、重要なポイントを生徒が自分の言葉で表現できることができ、大事なことを聞き逃すことがなくなった。また、本時の授業内容の目的やねらいが分かりやすくなった。

### 例1

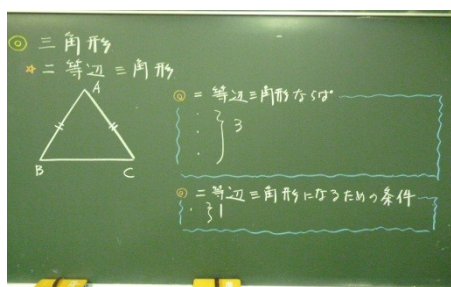
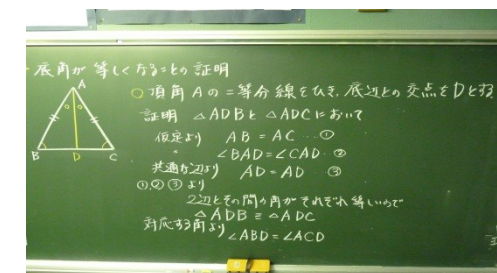
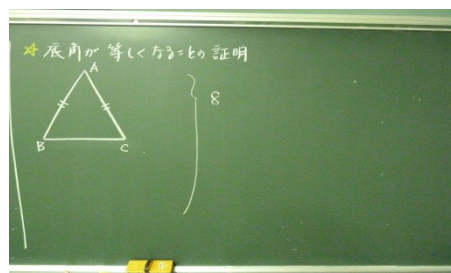


図1

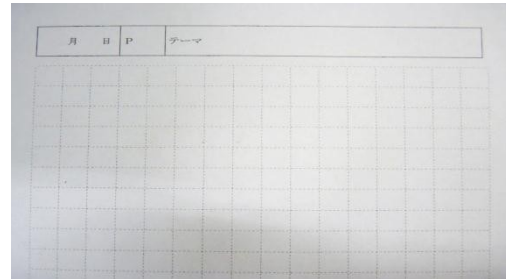


図2

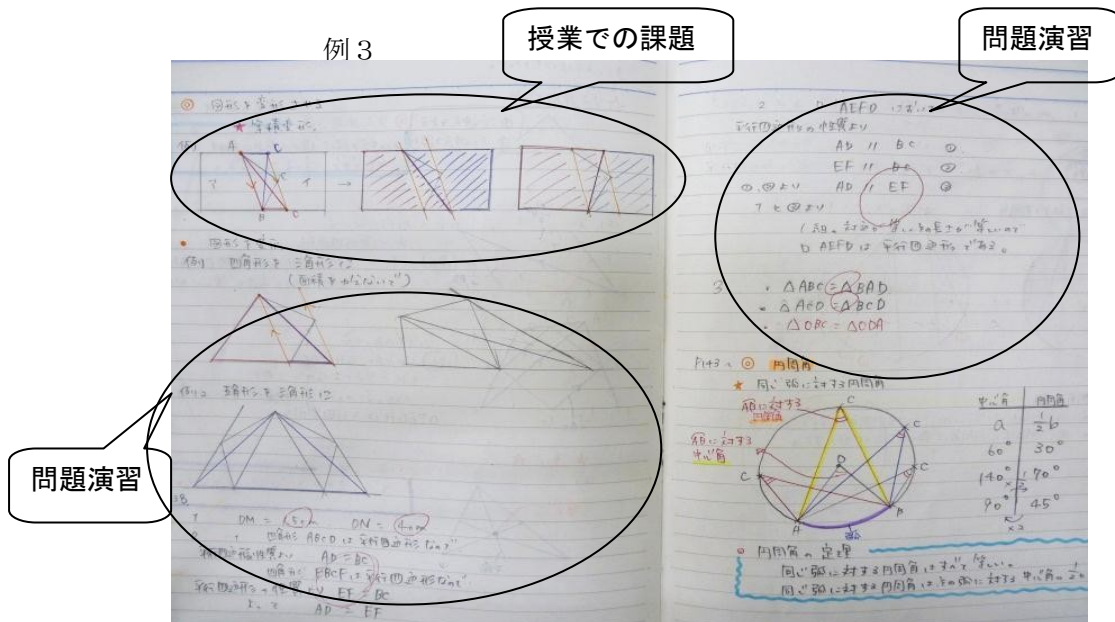


- ② はじめに板書するとき、書き加えていく項目に必要なノートのスペースを指示しておくことで生徒がノートを計画的にとることができ、重要ポイントを生徒が自分の言葉で表現することができる。また、右記の例2のようなプリントをノートとして配布した。これにより、図形やグラフなど正確に素早く書け、重要ポイントをメモする時間や生徒の考える時間の確保につながった。

例2



- ③ 問題演習をするとき、ノートに書いたものを活用できるよう課題を工夫して提示するよう心がけた。これにより、生徒が自らの力で問題を解決する手助けとなった。



#### 4 成果と課題

成果としては、どの生徒も友達が考え方を説明する時や教師が解説を加える時に集中して聞くことができ、さらに、疑問点や理解しづらかったことを質問し、仲間とのコミュニケーションを図る時間を確保することができるようになった。また、作図やグラフなど手間がかかるものが正確に素早く、全員が書けるようになり、苦手だと感じていた生徒が少なくなっていた。重要なポイントを自分の言葉で表現し、ノートに書き足すこともできるようになってきた。

課題として、どこまで板書したら良いか、それをどのようにノートにとらせ整理させるか、単元によって工夫していかなければならない。また、できるだけ、板書をノートに書きとる時間よりも、考える時間や考えを交流する時間をより多く確保することを考えていかなければならない。さらに次は、どの生徒も意欲的に取り組み、楽しいと感じる授業展開の仕方を考えていきたい。